

## 第4学年2組 体育科学習指導案

平成28年6月9日(木) 第5時限

体育館(男子18名、女子18名)

指導者

### 1 単元名 「みんなが熱中! Let's プレル!」 プレルボール 4年生

### 2 単元の目標

- ・運動に進んで取り組み、規則を守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりすることができる。  
(関心・意欲・態度)
- ・自己の課題に気付き、解決するための練習方法を選択したり、相手に応じた簡単な作戦を立てたりすることができる。  
(思考・判断)
- ・状況に応じてボールの落下点やボールを操作しやすい位置に体を移動したり、状況に応じてプレルを選択したりして、プレルボールのゲームを行うことができる。  
(技能)

### 3 単元について

本学級の児童は、活発な子が多く、放課の時間になると外に出かけて遊ぶ姿が見られる。それらの児童は、体育の時間になるとどの種目に対しても意欲的に取り組んでいる。しかし、一方で放課の時間は読書をして過ごし、運動に消極的な姿勢を見せる子もいる。そうした運動の二極化から、得意な子が自分の好きなようにゲームを行おうとし、勝敗がかかわってくると、自分本位なプレーや苦手な子を責めてしまう場面も見られる。

プレルボールは、自陣の床に手を用いてボールを打ち、味方にパスをしたり、低いネットを越し、相手コートにボールを返したりする攻守分離型のネット型のゲームである。また、子どもたちは、ルールや作戦を工夫して、集団の連係プレーによって守ったり攻めたりして、ラリーを続けることに楽しさが感じられるゲームである。同じネット型のゲームであるソフトバレーとは違い、ワンバウンドすることで苦手な子もボールに触れるまでの時間が生まれ、落ち着いてプレーすることができる。そこで、プレルボールを行い、運動が得意な子も苦手な子もラリーを続ける楽しさを感じさせたい。また、自己やチームの課題に気付き、仲間とともに解決する喜びを味わうことで、運動に主体的に取り組む子を育てたいと考え、本単元を構想した。

本単元では、プレルボールの映像を見せ、教材と出会わせる。初めて見たプレルボールという種目に興味をもち、やってみたいという思いをもつだろう。映像を見た後試しのゲームを行うことで、児童は、「楽しかった」という感想のほか、「ルールがわからない」、「難しい」という課題をもつ子が現れるだろう。そこで、みんなが熱中できるようなルール作りを行う。作ったルールに慣れ、自己の技能を向上させるためにラリーゲームを行う。単元の中盤では、チームや自己の課題に気付かせるためにチャレンジカップを行う。「パスをつなげたい」、「上手に打ちたい」、「強く打ちたい」、「チームの役割を解決させたい」という思いを実現するための練習の場を考えさせたり、選択させたりする。また、フレンズチームとお互いに試合を見合ったり、チームカードやスケッチ君にアドバイスを書き合ったりすることで、子どもたちに得点を取るためには自分たちに合った戦い方が必要だということに気付かせたい。単元の後半には、自分たちのチームに合った作戦を考える活動を行う。ここでは、児童が作戦について視覚的にとらえられるようにコートを図を描いたホワイトボードを与える。単元の最後には、U・1グランプリを行う。ここでは、自分たちが考えた作戦が成功する喜びや、仲間と協力する楽しさを味わわせたい。単元を通して、子どもたちがプレルボールに熱中する中で、自己やチームの課題に気付き、課題に向けて仲間と協力して主体的に活動し、課題を解決していく姿を期待したい。

4 単元構想（10時間完了） ○学習活動 ・児童の反応 ◇教師の支援 ◎評価

みんなが熱中！ Let's プレル！

プレルボールってなんだろう？やってみたいな①

○プレルボールについての映像を視聴し、学習の進め方やルールについて知る。

- ・おもしろそう。・早くやってみたいな。・ボールを打つのが難しいのかな。
- 試しのゲームを行う。
  - ・これならできるかな。
  - ・ボールが少しの力で弾むよ。
  - ・うまく打てた時はうれしいな。
  - ・ビデオみたいに試合ができないな。
  - ・このルールだと苦手な子が楽しめないな。

- ルール
- ・ボールキャッチなし
  - ・1バウンドだけ
  - ・3回以内で返す
  - ・片手でプレルする。

- ◇プレルボールに対する意欲を高めるために、映像を見せる。
- ◇一人一人のプレーの機会を多くするために、1チーム3人でチーム編成をする。
- ◇ルールを知り、課題意識をもたせるために試しのゲームを行う。

「ぼくらのルール」を作ってみんなで楽しみたいな②③

○「ぼくらのルール」を考え、ラリーゲームを行う。

- ・ルールを変えた方がみんなで楽しめるぞ。
- ・上手に打てるようになってきたな。
- ・パスがつながると楽しいな。
- ・もっと上手にパスを出したいな。
- ・試合らしくなってきたぞ。
- ・いろいろな相手と勝負したいな。

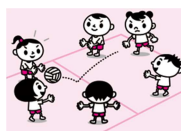
- ルール
- ・全員が触ってから返す。
  - ・3回か4回で返す。
  - ・同じ人が連続で2回触らない。
  - ・キャッチあり。
  - ・キャッチしたボールは味方にパスするだけ。
  - ・両手プレルあり。
  - ・2バウンドまでOK。

- ◇苦手な子も参加することができるようにするために、ルールを子どもたちと相談しながら作る。（ぼくらのルール）
- ◇「ぼくらのルール」を徹底するために、ルールを掲示する。
- ◇ルールに慣れ、ボールに触れる機会を多く作るために、ミニコートを設ける。
- ◇パスの技能を向上させるために、フレンズチームとラリーゲームを行う。

試合らしくなってきたから勝負してみたいな④⑤⑥（本時⑥）

○チャレンジカップを開く。

- ・強く打ったらゲームで決まったよ。
- ・パスが繋がらないな。



○ゲームで出た課題を確認し、レベルアップゲームを行う。

- ◇客観的な視点から個人技能やチーム内の役割に気付かせるために、フレンズチームの試合を見合う。
- ◇自己だけでなく、チームの課題に気付かせるために、チームカード（PGK）を活用する。
- ◇子どもが見つけた課題解決ポイントをクラスで広めるために、出た意見を「スケッチ君」に自由に書かせ、課題解決に有効なポイントについては朱書きをする。

モグラたたき

- ・どうしたらねらったところに打てるのかな。
- ↓
- ・床に4か所設置された目標に向かってプレルする。
- ↓
- ・打ちやすい位置に移動すればいいんだな。

ドーナツ通し

- ・どうしたら強く打ちつけれるのかな。
- ↓
- ・ステージ上に設置されたフラフープに向かってプレルする。
- ↓
- ・肘を伸ばすことが大事だな。
- ・しっかりとふみこむとできるな。

ラリー島

- ・パスをつなぐためには何が必要なのか。
- ↓
- ・円陣パス
- ・4面プレル
- ・ランニングパス
- ・1対1、2対2
- ↓
- ・ボールがバウンドする位置を考えて、移動することが大切だな。

- ・点を取る作戦があった方がいいのかな。
- ・得点を取るために自分たちにあった作戦を決めて試合で使ってみたいな。

試合で得点するためにはどうしたらいいだろう。⑦⑧

○各チームで作戦を考え、ゲームを行う。

- ・相手がとりにくいように低くて速いボールを後ろから打とう。
- ・相手のいない場所や人と人との間にボールを打とう。
- ・高いバウンドのボールを打とう。
- ・緩急をつけてみよう。

- ◇楽しみながら技能が向上するように、ゲーム形式で練習する場を設ける。
- ◇打ち方、攻め方、守り方、フォーメーションに気付かせるために、導入時に見た映像を再度視聴させ、気付いたことを発言させる。
- ◇（どうしたらねらったところに打てるのか）、（どうしたら強く打ちつけるのか）、（パスをつなぐために何が必要か）という課題を解決するために、練習方法を子どもたちに考えさせたり、選択させたりする。

- ◇チームの課題を意識した作戦会議にするために、コート図を描いたホワイトボードを用意し、必要であれば貸し出して考えさせる。
- ◇学級で共通の課題をもたせるために、攻撃を中心とした作戦を考えさせる。

○作戦を振り返り、そこで出た課題を解決するための練習を行う。

- ・作戦通りうまくいったな。
- ・作戦はわかっていたけど、あと少しだったな。
- ・うまくボールがつけなかったな。
- ・試合で得点が取れるようになってきたな。
- ・いろいろなチームに勝ちたいな。

自分たちが考えた作戦を使っていろいろなチームと戦ってみたい  
な⑨⑩

○全チームと対戦する U-1 グランプリを開催する。

- ・自分たちが考えた作戦が成功してうれしかったな。
- ・思っているところにボールが打ちつけることができ楽しかったな。
- ・苦手な私でも、友だちがカバーしてくれたからがんばれたよ。

◎個人・チームの課題を考え、課題に合った練習方法を考えたり、選択したりすることができたか。

(動きの観察、学習カード)

◎チームの特徴にあった作戦を考えることができたか。

(動きの観察、学習カード)

◇チーム力の高まりや練習の成果を確認するために、まとめの試合を行う。

◇作戦が遂行しやすいように、子どもたちが考えた易しいルール(ぼくらのルール)で行う。

◎仲間と協力して試合に臨むことができたか。(動きの観察、学習カード)

**ブレルボール楽しかったな。他のゲームにも生かしたいな**

## 5 本時の指導(6/10)

### (1) 本時のねらい

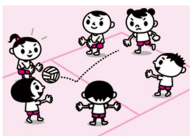
- ・ルールやマナーを守って、仲間と協力し励まし合いながら練習や試合を行うことができる。
- ・自己やチームの課題に気づき、解決に向けて練習方法を考えたり選択したりすることができる。

## (2) 準備

教師：スケット君、ソフトドッジボール、バドミントン用ネット、支柱（50～60cm）、フラフープ、カラーコーン、机、タイマー、ケンステップ、ビブス

児童：体育ファイル、筆記用具、赤白帽子

## (3) 学習過程

○学習活動・予想される児童の反応	◇教師の支援 ※評価
<p>○本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>得点を取るために必要なことを見つけよう。</p> </div> <p>○前回の課題を全体で確認し、練習方法を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid green; margin-bottom: 5px;">モグラたたき</p> <p>・どうしたらねらったところに打てるのかな。 ↓ 床に4か所設置された目標に向かってプレルする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid green; margin-bottom: 5px;">ドーナツ通し プレリンピック</p> <p>・どうしたら強く打ちつけれるのかな。 ↓ ステージ上に設置されたフラフープに向かってプレルする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid green; margin-bottom: 5px;">つなげりんピック</p> <p>・パスをつなぐためには何が必要かな。 ↓ ・円陣パス ・4面プレル ・ランニングパス ・1対1、2対2</p> </div> </div> <p>○練習をして、課題を解決するために気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を向けたら狙ったところに打てたぞ。</li> <li>・強く打つためには、手をグーにして打つと打てるんだな。</li> <li>・パスをつなぐためには、声をかけながら練習するといいんだな。</li> </ul> <p>○ゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールが落ちる位置に早く入ったら、うまく打てたな。</li> <li>・打ちたい方向に体を向けたらうまく打てたな。</li> <li>・狙ったところに打つ前にボールがつけなくなっちゃうな。</li> </ul> <p>○フレンズチームとの振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレンズチームからのアドバイスで次の時間の課題が見つかったな。</li> </ul> <p>○全体での振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・得点を取るために、何か決まった形があるといいのかな。</li> <li>・自分たちで作戦を決めてみたいな。</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	<p>◇課題に対する適切な練習方法がわからない子のために、全体で練習方法を考える場を設ける。</p> <p>◇課題解決のヒントを与えるために、できている子の動きを視点を与えて見るように助言する。</p> <p>◇楽しみながら技術が向上するように、ゲーム形式で練習する場を設ける。</p> <p>◇技能が高い子も楽しめるようにするために、ワンバウンドしてから打つ方法や、パスしてもらってから打つ方法などを紹介する。</p> <p>◇自己の課題を解決している子は、チームメイトの課題が解決できるようにアドバイスしたり一緒に練習したりするように声をかける。</p> <p>※課題に対する適切な練習方法を選択することができたか。(活動の様子)</p> <p>◇課題解決のための技能ポイントを全員の課題として認識するために、発表者に実演させたり、切り返しの発問をしたりして詳しく聞く。</p> <p>◇チーム内で高め合う雰囲気を作るために、仲間に対して肯定的な声掛けができていたチームを紹介し称賛する。</p> <p>※仲間と協力し、励まし合いながら試合を行うことができたか。(活動の様子)</p> <p>◇客観的な視点から成果と課題を見つけるために、フレンズチームからアドバイスをもらう時間を設ける。</p> <p>◇チームや個人の課題を共有するために、全体での振り返りでは、多くのチームで出た課題についても取り上げる。</p>